

## 2023年度中学3年生（GS） 海外研修：フィリピン共和国（9日目～10日目）

3月1日（金） 9日目「フィリピンのゴミ問題」

午前中は、「フィリピンのゴミ処理場” Sanitary landfill”」について学びました。



衛生ゴミ処理場とは廃棄物を焼却せずに溜める場所で、山のように溜まったゴミに由来する衛生問題、汚染問題、用地の限界など、多くの課題があります。

午後には、実際に処理場を訪れました。私たちはマスクを何重にもしていましたが、現場で働く人々は何もつけずに作業していることや、プラスチックは粉碎して燃料として売却したり、コンポストにして処理できるものは資源として利用したりと改善と工夫がなされていることも知りました。



また、そのすぐ隣で暮らす人々を訪問して直接話を聴き、インタビューしました。暑い中でしたが、確かにそこで生活を営む人々がいて、ゴミ処理場を収入源としていること、そこで暮らす子供たちの好奇心に溢れる笑顔と出会ったことは、” Sanitary landfill” をめぐる複雑に絡み合った問題を考えるきっかけとなりました。



3月2日(土) 10日目 フィリピンユースの 학생さんと一緒に Beach Cleanup へ!

フィリピンでは、ユース(人口の40%にあたる15歳~30歳の若者)が、よりよい環境を作っていく Catalyst(触媒)となることに大きな期待が向けられています。彼等と一緒に海洋ゴミ問題について考え、マングローブを育てている Dumangas の海岸で Beach Cleanup の活動をおこないました。水辺に生えるマングローブの林は、二酸化炭素の増加を抑え、高潮などの災害対策にもなります。しかし、海洋ゴミの量が世界第3位(2010年調べ)のフィリピンでは、プラスチック製品の切れ端などのゴミの漂着がとても多く、ダメージをうけてしまうのです。

実際に漂着ゴミを収集しながら、プラごみ、包装紙、ガラス瓶など種類別にデータを記録し、昨日訪れた、"Sanitary landfill"に堆積した廃棄物とも深く関連していることに気がつきました

